

新しいまちづくりと地域コミュニティの役割

地方自治の背景

地方分権の時代

国に大きな権限許可、認可など(が集中して)いましたが、平成12年(2000年)からは地方(道や市町村)のことは地方が自主的に決定するとともに、自らその責任を負うことになりました。いわゆる権限の一部を地方へ分散し、あわせて地方への国の関与(指導や通達)を弱めることとなりました。このことは地方にとって望ましいことですが、自主的な判断や自立に対する地方の責任は今よりも重くなります。

行財政の改革

地方分権により国の権限はある程度整理されました。

しかし、地方の自主性を強化するためには地方財政の問題が残っています。国から地方へ財源を移す議論は、さまざま意見があり地方が望むようには進んでいません。

方向を誤ります。

最近、住民の意思を確実にとらえて判断しなければならぬ重要な問題では、住民投票が各地で行われるようになってきました。これからは住民の判断や責任とともに、「参加と協働」による住民自治が重要になってきます。

自立と自律

町が自立するためには、生活や産業の基盤が充実しており、新たなまちづくりのために必要な財源の見通しが立っていないければなりません。厳しい状況のなかでも明確な目標を定め、智慧を出し、力を合わせることで自立への道となります。

また、住民や行政はそれぞれの役割を自覚(自律)して責任を果たすことが大切になります。

参加と協働

まちづくりや地域づくりを進める重要な要素として、「参加と協働」があります。最近「言葉がよく使われるようになりまして、この二つの言葉は、自治の視点からみると特別な意味をもっています。」

参加とは

町や団体等が計画するさまざまな事業、抱える課題や問題の処理などに積極的にかわり自らの意思が反映されることを目



西部地区新年交流会
このような交流会などを通じて
地区が抱える問題が話し合われる。

清潔で美しい環境を守り、お互いの顔が見えるなごやかな地域で安心して生活できるのは、住民一

「これからの地域コミュニティ

福祉の充実や環境の保全など生活にかかわる幅広い分野で行政サービスが行われています。

これからもさまざまな要望に適切な対応をしていかなければなりません。今後の経済状況、人口の減少化、少子・高齢の長寿社会においては、行政が提供するサービスにも限界があります。そこで、住民や地域の果す役割が大切になってきます。

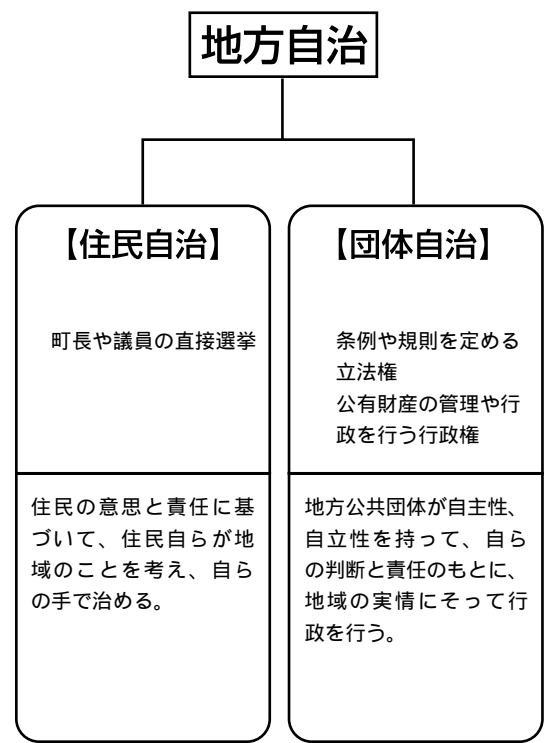
清潔で美しい環境を守り、お互いの顔が見えるなごやかな地域で安心して生活できるのは、住民一

的として意見を述べ、提案すること

協働とは

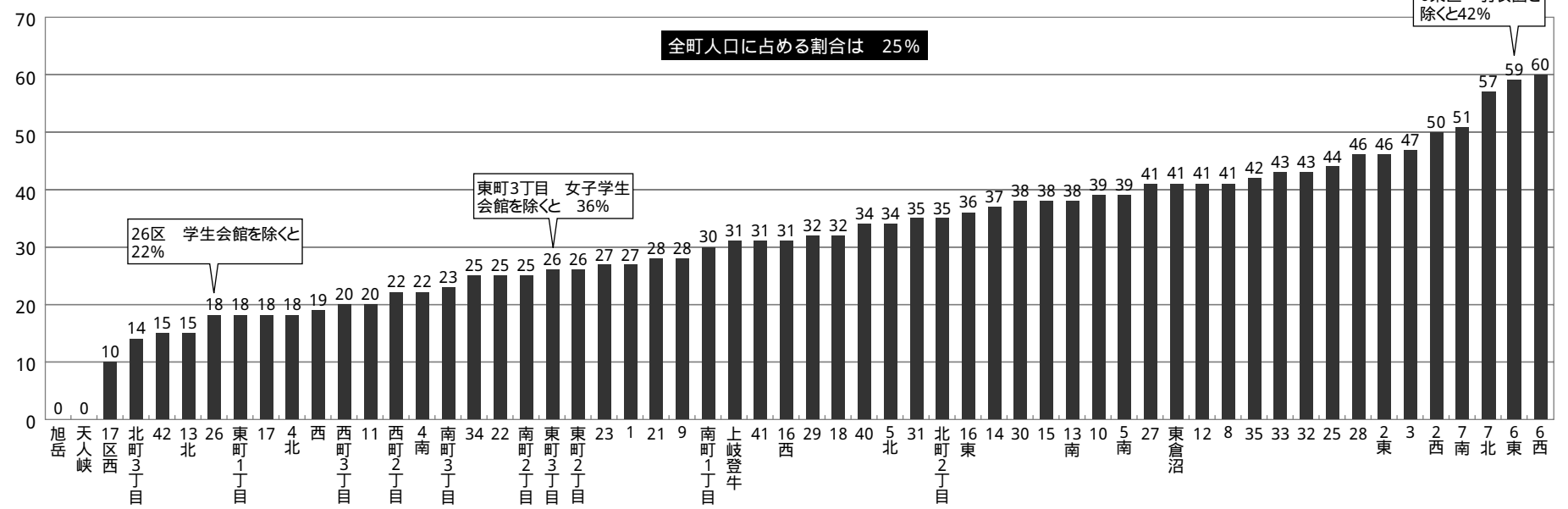
住民と町や団体等がそれぞれ果すべき責任と役割を自覚し、お互いの立場を尊重して、共通の目的を達成するために協力、協働して活動すること

(図) 団体自治と住民自治



地域コミュニティをみなおそうをテーマに、2月号では地域コミュニティの現状やこれからの課題について考えました。今月号ではあたらしく「まちづくりの姿とコミュニティとの関わりについて考えます。」

行政区ごとの65歳以上の占める割合



全町平均の高齢化率は、25%で4人に一人は65歳以上となる。
 高齢化率が37%を超えているのは農村地域の行政区で、更に高くなると思われる。これ等の行政区では高齢者自身の役割が大切になる。
 市街地地域は宅地造成等により高齢化率は一時的に下がる可能性はあるものの、長寿社会では上昇に転ずることも考えられる。